
Panel Discussion

Panel Discussion 3 (I-PD3)

Chair:Hiroshi Date(京都大学呼吸器外科)

Chair:Shozaburo Doi(東京医科歯科大学小児科)

Fri. Jul 7, 2017 4:15 PM - 5:45 PM ROOM 4 (Exhibition and Event Hall Room 4)

4:15 PM - 5:45 PM

[I-PD3-03] Characteristics of candidate for lung transplantation in patients with pulmonary hypertension

○Tomotaka Nakayama¹, Satoshi Ikehara¹, Shinichi Takatsuki¹, Tsutomu Saji², Hiroyuki Matsuura¹

(1.Department of Pediatrics, Toho University Omori Medical Center, Tokyo, Japan, 2.Advanced and Integrated Cardiovascular Research Course in the Young and Adolescence, Toho University, Tokyo, Japan)

Keywords:肺高血圧, 術前管理, 肺移植

【背景】肺高血圧症(PH)の予後は内科治療の進歩により大幅に改善されたが、治療抵抗性の重症例は極めて予後不良で肺移植(LT)が唯一の救命手段となる。しかしドナー不足ゆえ LT登録待機患者の約40%が待機中に死亡する。改正法施行後、脳死 LT数は増加し待機期間は短縮されつつあるが、小児患者では適合するドナーの出現機会が少なく、生体 LTを含めた検討を要する。【目的】 LTx・死亡に至った PH症例を見直して LTの適切な時期や術前管理を検討する。【対象】 1994年4月以降、当科に入院し定期観察しえた PH症例のうち早期死亡9例を除く110例。診療録をもとに LT登録状況、LT・死亡例の患者背景を調査。【結果】 平均 7.0 ± 4.4 年(1.2~20年)の観察期間中に LT13例(A群)、死亡26例(B群)。A群の初診時年齢は6.5~37.8(中央値11.7)歳、生体8例(渡航1例含む)・脳死5例。基礎疾患は I/HPAH10例・CHD1例・その他2例。初診から LTは1.8~10.9(4.7)年、登録した5例の待機期間は1.9~6.4年。術前治療はエポプロステノール(EPO)9例・カテコラミン8例、LT施設での長期入院2例。一方、B群の基礎疾患は I/HPAH14例・CHD6例・その他6例。死因は心不全14例・喀血4例・感染症3例・突然死5例、心不全死14例中 LT登録は5例のみ(待機期間0.2~4.5年)。生存71例中 EPO37例で WHO-FC IIIの7例で LT登録(準備中含む)を完了し待機期間1.6~11.6年。【結論】 PH重症例では初診時から生体 LTの可能性や約4年の待機期間を考慮した LT登録を検討すべきである。